



2016年11月のロータリーレートは1ドル=102円



R I 会長テーマ：

「人類に奉仕するロータリー」 Rotary Serving Humanity

2016-17年度国際ロータリー会長 ジョンF. ジャーム

チャタヌーガ・ロータリークラブ（米国テネシー州）

「語り合おう ロータリー」

R I 第 2610 地区2016-17年度年度ガバナー

岡部一輝（かずき）（南砺 RC）




**例会便り**  
第 861 回 2017 年  
ホテル日航金沢 5 F

2/2 例会出席率 21/47 44.68 %  
12月の平均出席率 63.98 %

布施美枝子 SAA

**点 鐘**

1. 国歌 『君が代』
2. ロータリーソング  
『奉仕の理想』
3. 四つのテスト
4. 若狭豊会長挨拶



**5. ゲスト・ビジターのご紹介**

(1)ゲスト：〔卓話者〕加賀白山RC米山奨学生 郭 越（かく えつ）様  
加賀白山 RC カウンセラー 吉田 義明（よした よしあき）様  
〔米山奨学生〕黄 懿園（コウ イエン）さん

(2)ビジター：石川第一分区Bガバナー補佐 吉井 清（よしい きよし）様 金沢香林坊RC 村野 元孝（むらの もとたか）様

**6. 米山奨学生へ奨学金支給 黄 懿園さん**



先週卒業認定Aをもらうことができました。とてもうれしいことを皆さんに報告します。2/15（水）～2/21（火）まで21

世紀美術館で卒業展示を行ないます。ぜひ近くへ来られることがあれば寄ってください。最近引っ越し先を探していますが、なかなか良い部屋が見つかりません。もし良い場所を知っていたら紹介してください。有難うございました。



**《 食 事 》**

**7. 今月の誕生者の紹介**

15日 宮永 満祐美 会員    22日 杵屋喜三以満 会員    24日 土田 初子 会員  
25日 江守 道子 会員

**8. 幹事報告・委員会報告**



〔幹事報告〕武藤清秀幹事

①来週の例会場は3 F「ルミエール」に変更となります。また、例会終了後、「松の間」におきまして理事役員会を開催します。

② 3/30（木）は休会ですが、米山奨学生黄さんの送別会を計画しています。時間・場所は未定ですが現状でのご出欠について回覧中の用紙にご記入をお願いします。

③平成28年米山記念奨学会寄付金領収証を棚にお配りしていますのでご確認ください。

〔委員会報告〕石丸幹夫会報委員長

広報の会報委員会からです。写真付のクラブ会員名簿ができました。これで会員みなさんの名前を覚えてください。職業は英語でも書いていますから外国の方にもよくわかると思います。韓国の朴天学先生から、もう送ってほしいと連絡がありました。

9. ニコニコBOX ¥9,000- 本年度¥322,000- 残高¥6,496,106-



石川第一分区Bガバナー補佐 吉井様：メイクアップさせて戴きます。

幹事：皆さん今晚は。加賀白山RC吉田義明様、ガバナー補佐吉井清様ようこそ。郭越さん卓話よろしくお祈いします。

杵屋喜三以満会員：今年はじめて例会場での出席です。お休みばかりですみません。今年もよろしくお祈いいたします。

炭谷会員：今夜は米山奨学生郭さん、そして御同行の吉田様御苦勞様です。

## 10. 講話の時間

加賀白山RCカウンセラー 吉田 義明様：今日は金沢北クラブの例会に出席し、私は大聖寺へ一旦戻って一仕事して又金沢へ参りました。加賀白山RCは百万石に負けにくい米山について熱心にやっております、2年に1回お受けして彼女で9人目です。昨年クラブの20周年式典に過去の米山奨学生に声をかけて、NY・東京・新潟など各地から来てくれました。郭さんとは1年のつきあいで、美人でおとなしそうに見えますが、実はしっかりしていてすごく頭がいい。成績優秀ですから次の行き先も決まっています。語学も堪能で感心しています。今日はよろしくお祈いします。



## 『 中国の茶文化について 』 郭 越 (かく えつ) さん (別添原稿)



ご挨拶：本日、皆様の前で卓話する貴重な時間をいただきまして、本当に光栄と思っております。だどだといふ日本語で分かりづらいところもあると思いますが、何卒よろしくお祈いいたします。

今日は中国の茶文化について皆様にご紹介申し上げたいと思います。その前に、私と会うのが初めての方が多いため、まず改めて自己紹介をさせていただきます。

私は1993年12月26日に中国河北省石家荘市に生まれ、今年23歳です。趣味は撮影、旅行と料理をすることです。石家荘市は中国河北省の省都です。北京から南に280キロの場所に位置しており、高速鉄道では一時間半ほどで着くことができます。人口約1200万人、北京にもっとも近い省都です。中国の地方区分のひとつである華北地区に位置し、交通機関が発達した都市でもあります。全国の鉄道、高速道路、航空路とつながっているため華北地区最大の交通の要衝となっているだけでなく商業・貿易、物流の中心地ともなっています。特産品には棗、梨、くるみがあります。

日本の方々から「なぜ遠い中国からわざわざ日本に留学に来たのですか」という質問をよく聞かれました。私は日本へ留学するきっかけは、私は中学生の頃から日本のアニメーションに触れ、日本語に大きな関心を持つようになっていました。そこで、北京語言大学に入り、日本語を専攻することに決めました。大学で日本語を勉強する中で、日本文化に触れる機会が増え、日本や日本人に対して興味がわくとともに、イメージや噂で固められた日本像にとらわれず、自分の目で確かめ、自分の体で日本を感じたいと思うようになり、日本へ留学しようと決心しました。

丁度北京語言大学と北陸大学は姉妹校で、それぞれの学校で取得した単位を両方とも認められて、また、卒業する際、二つの大学から学位がいただけるダブルデグリー教育プログラムがあって、これをきっかけに、私は一昨年の4月から学部3年生として北陸大学に編入留学し、金融・会計を専攻しはじまりました。

時間が経つのは早く、留学を通じて本当に多くのものを得ることができました。そして、私にとってこの留学生活一番の収穫は米山奨学生になることです。この奨学金のおかげで、経済負担が

軽減され、勉強に専念することもできました。また、ロータリーの様々な活動で各分野で素晴らしい成果を上げておられるロータリアンの方々と知り合い、自分の考え方や視野が大きく広がり、とても貴重な勉強になりました。

支えてくれるロータリアンの皆様の恩返しとして、これから私はロータリーの理念を広げ、将来私もロータリアンの一員になれば良いと思っております。

来年 4 月より、慶應義塾大学経営管理研究科に進学することになります。日本と中国の架け橋となる存在になることを目標に様々なことを勉強し、経験を積み、社会に貢献し、またロータリアンの方々との絆、日本との絆を大切にしていきたいと思っております。

**中国の茶文化について：** このテーマを選んだきっかけをお話したいと思いますが、中国はお茶歴史の長さ、生産や消費の量やお茶文化の厚みはずば抜けた、世界一のお茶の国と言えるでしょう。「日常茶飯事」という言葉が有るように、我々の日常生活において昔からお茶とは深い関係が有るようです。ご飯だけでなくお茶も、食習慣の中で欠かせないものとして、日中両国で愛飲される飲料の一つです。そのうえ中国を原産としてその栽培や飲用も最古の歴史を持つ由緒のあるお茶は、中国「国飲」であり、茶文化も誇りうる一つの優秀な民族文化だと思います。また、私自身自身も中国のお茶に対して深い興味を持っているため、中国茶文化の紹介によって、皆様の中国文化の理解の一助となれば幸いです。

全体は大きく五つに分かれております。

**1、中国茶の起源・普及**中国茶の起源に関してはまだ解明されていませんが、中国には中国茶にまつわる伝説が残っています。伝説によると、今から5000年前ほどの紀元前2700年頃に薬の神様といわれている「神農」が解毒の為に茶を飲んでいたと言われております。これが「神農説」といわれる中国茶の伝説です。

中国は茶樹の原産地であり、中国が果たした茶文化における大きな貢献は、最も早い段階で茶樹という植物を発見し、それを利用したことと、茶文化をアジアひいては全世界へ発展させたことにあります。

中国における茶樹の栽培と利用は今の四川省に発祥し、その後東部と南部に伝わり、全国へ普及しました。唐の時代には日本と朝鮮に伝わり、16世紀以後に欧米に伝わりました。

欧米諸国の「茶」という言葉は、ほとんど当時海上貿易港であった福建のアモイと広東の方言の中の「茶」の発音と同じです。中国からお茶の呼称、お茶についての知識、茶樹の栽培と加工技術などを世界に伝えることによって、お茶は、世界中で一般的の飲み物となりました。世界各国のお茶は、直接あるいは間接に、中国茶とのつながりがあるといえるでしょう。

## 2、中国茶の分類

中国茶の生産地域は広大な国土に広がっています。雲南省から、西は四川省、北は黄河流域の陝西省、東海沿岸の山東省、江蘇省、浙江省、福建省、広東省などに囲まれた地域、そして台湾でお茶がつくられ、産地は数えられないほどあります。

茶畑の環境は、標高千メートル級の高地、奇岩が並ぶ山地などバリエーションに富んでいます。こうした産地の風土、国内外の消費者の好みにあわせて栽培と製造方法も発展し、お茶の種類は千を下らないと言われるほどです。



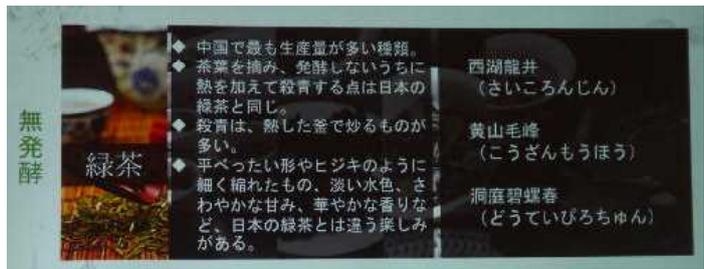
その分類も、茶葉の色や形、香りなどで分ける方法など、実に多種多様です。一般的には、茶葉の酸化発酵のしかたによって6種類に分類することができます。

では詳しく説明させていただきます。

**緑茶：**中国で最も生産量が多い種類。茶葉を摘み、発酵しないうちに熱を加えて殺青する点は日本

の緑茶と同じ。殺青は、熱した釜で炒るものが多い。平べったい形やヒジキのように細く縮れたもの、淡い水色、さわやかな甘み、華やかな香りなど、日本の緑茶とは違う楽しみがあります。

代表的な銘柄：西湖龍井(さいころんじん)  
 黄山毛峰(こうざんもうほう) 洞庭碧螺春(どうていびろちゅん)



**白茶**：新芽の芽の部分だけを使い、わずかに酸化発酵させて作るお茶。白い産毛に覆われ、見た目も味も繊細で上品。畑で新芽を摘み、作業場で新芽から芽先だけを手作業で取り出して使う。加工温度は低く、産毛を残すように軽く揉む。

代表的な銘柄：白毫銀針(はくごうぎんしん) 白牡丹(しろぼたん)



**黄茶**：白茶と同じく芯の部分だけを使い、やや弱い発酵をさせたお茶。手間暇かけた独特の工程で、優雅な黄みを帯びた茶葉に仕上げられる。より分けた芽を殺青後、紙に包んで高温に密封して置く。釜炒りと密封工程を繰り返した後に堆積放置して弱い発酵を促す。

代表的な銘柄：君山銀針(くんざんぎんしん) 蒙頂黄芽(もうちょうこうが)

**青茶**：花や果物のような香りと柔らかい甘みが、日本でも人気のお茶。発酵の弱いものから紅茶に近いものまで種類が豊富。茶摘み後、ざるなどに広げた茶葉を天日や室内で萎凋させ、酸化発酵を促す。発酵が軽いものは葉の緑色が残り、発酵程度が高いと青紫色を帯びる。形は芽が軽くよれたものや、コロンとした珠状のものがある。

代表的な銘柄：安溪鉄観音(あんけいてつかんのん) 黄金桂(おうごんけい)  
 凍頂烏龍茶(とうちょううーろんちゃ)

**紅茶**：インドやスリランカ産が有名な紅茶だが、ルーツは中国にある。伝統的な製法で、カットしないものも多い。全般に苦味が少なく、熱した果物の香りがするキーモン、松で燻した香りの小種などの個性も人気の理由。茶葉を摘んだ後に萎凋、揉捻後、葉が赤くなるまで完全に発酵させてくる。

代表的な銘柄：祁門紅茶(きーまんこうちゃ) 九曲紅梅(きゅうきょくこうばい)

**黒茶**：乾いた黒っぽい色をした後発酵のお茶。十分な水分と温度を保った環境下で、微生物の力を借りて発酵する工程が特徴。酸味やカビなど独特の風味がある。葉が縮れた形の散茶と、餅や団子のように固めた茶のものがある。

代表的な銘柄：普洱茶(ぷーあーるちゃ)

6種類のお茶のほかに、香りの良いお茶が珍重される中国で、**花茶**も好まれています。花茶には三つのタイプがあり、ひとつは緑茶などの茶葉に花自体を混ぜたもの、もうひとつは花の香りだけを茶葉に移したもの、花全体をお茶として飲むものもあります。香り付けとして使われるのは、ジャスミンやバラ、桂花などです。

### 3、中国茶の飲む習俗

中国茶を飲む風習は地方によっていろいろな特色があります。中国茶を飲む習俗は主に三種類に分けられます。

第一は、すっきりして垢抜けした習俗です。

茶葉にお湯を注ぎ、清くて優雅に飲み、お茶の自然の味を求める。これは境地を重んじ、古代の「心が静かである」という伝統的思想とぴったり合った飲み方です。中国の江南の緑茶、北方のジャスミンなどの花茶、西南地区のプーアル茶、福建あたりのウーロン茶はこれに属します。

第二は、調味料の味を求める習俗です。

その特徴はお茶にいろいろな調味料を入れることです。独自の文化を受け継いでいる中国少数民族には、お茶使いにも個性があふれています。例えばモンゴル、チベット地域のチーズ、塩、ミルクな

どを入れたバター茶、ドン族の米、落花生、ネギなどを入れた油茶、トウチャ族の緑茶の茶葉、ゴマ、ピーナツ、ショウガなどを原料として擂り鉢に入れて、砕いた後にお湯を加えて飲むという擂茶はこれに属します。いずれもお茶に調味料の特有の味がついています。

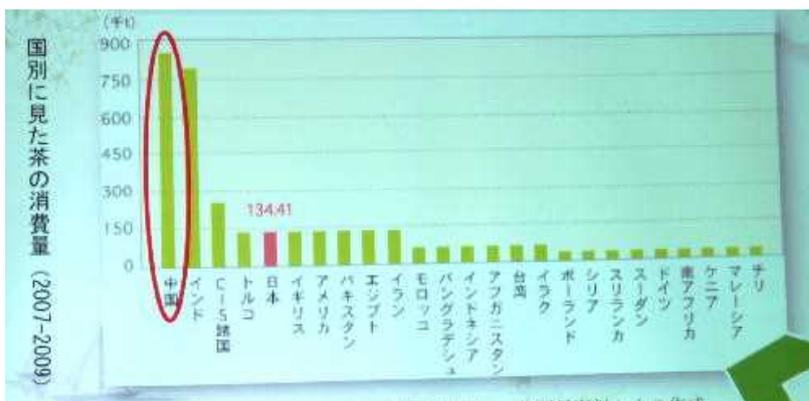
第三は、多種類の楽しみを求める習俗です。

すなわち、茶を賞味すると同時に踊り・音楽・書画・劇などを鑑賞することです。例えば、北京の「茶館」、成都の「茶楼」はこれに属します。茶館によっては、中国武術や舞踊を思わせるダイナミックな動きでお茶を淹れ、お客を魅了しているところもあります。

このほかには、お茶の産地では、お茶を使った料理も昔から好まれています。龍井茶のエビ炒め、鉄観音の鶏煮込み、紅茶の東坡肉など。その種類も多彩です。

#### 4、中国茶文化の発展

今日の中国においては、お茶が国の飲料である「国飲」に位置付けられ、茶文化が優秀な民族文化の一つとして国内外に向けて推進されています。2008年に北京で開催された中国初の夏季オリンピックでは、開会式における中国文化を彩る「燦爛文明」のひとつとして、「茶」という漢字が鮮明に提示されていました。また、2010年の上海万国博覧会においては、



「联合国連合館」の中に「中国茶展示区」が設けられており、商品としてのお茶を世界に発信するだけでなく、一連の茶文化活動の開催を通じて、文化としての中国茶が世界にアピールされました。

お茶は、このような国家の大型イベントはいうまでもなく、国民の日常生活の隅々までにかかわっています。現在、中国は世界第一のお茶生産国、また紅茶、ウーロン茶、緑茶などを合計したお茶の消費量を見ると、中国も世界で最もたくさんのお茶を消費している国です。

国内では年間およそ90万トンのお茶が消費されており、10万軒以上の茶館が全国各地の街にならんでいます。ほとんどの都市に「茶城」、「茶市場」のような大型販売センターがあるほか、小型の販売店をあちこちに見かけることができます。そして、多くの都市では年に何回か茶文化イベントが開かれています。教育の分野では、小学校、中学校、高校に茶文化の授業が開設され、大学には茶文化専攻のコースまで設置されるようになりました。家庭においては、一般的にお茶は個人や家族を癒し来客をもてなすものであるが、情報化の急速な発達の中で大量の茶文化番組やコマースが家庭に入り込んでくることで、お茶の影響がより強くなったといえるでしょう。

#### 5、日中茶文化の展望

最後になりますが、中国の茶文化も日本の茶道に大きな影響を与えたとされています。茶文化であっても、茶道であっても、日中両国にとって伝統文化の一つです。時代の流れに応じて、伝統文化と現代社会をよく結びつけるべきだと思います。また、人類の優れた文化財には国境がないです。お茶は日中両国において随分長い歴史を持っていて、絶えず繁栄することは両国にとって共通の目標です。そのため、今後日中両国間でお茶に関する交流の拡大も期待しています。

1 1. 質疑応答 1 2. 謝辞・謝礼

点 鐘

パストガバナーからの手紙 292回 2017.2.9 炭谷 亮一

〈能〉世阿弥その1 ～幽玄なる世界～

千年以上の歴史を持つ〈能〉、足利義満は観阿弥の芸に惹きつけられ、義満は以後、能楽の熱心な保護者となった。以来〈能〉は貴族・武家の文化として今日まで発展してきた。

〈能〉は観阿弥、世阿弥の父子が確立させた。観阿弥、世阿弥は旅芸人であり当然無学文旨であった、芸は口承とパフォーマンスの体得により伝承されてきた（決して文章によるものではない）。

ところが世阿弥12歳の時に前の関白二条良基に引きとられ5年間、みっちり読み書きそして高等教育をうけた。その5年後観阿弥は没したが、当時22歳だった世阿弥は、足利義満の理解ある後援のもとに彼の芸を深めていった。

ところで、義満は、芸に対して高度の観賞眼をもつ人物であったから、世阿弥の芸も、おのずからそれに合い、又耐えうる様に成長せざるをえなかった。〈能〉は大陸から入って来た散楽をもとにした猿楽と日本の舞楽が合わさり、さらに仏教的要素が加わってできた芸能であると言われている。義満の庇護のもと、世阿弥は才能を開花させた。

世阿弥の業績は偉大で世阿弥なくして今日の〈能〉は存在しない、世阿弥の作として確実なものは44曲、これに準じうるもの52曲合計96曲、ちなみに父観阿弥は12曲（これはすべて世阿弥の筆記による）しかも観阿弥とは明らかに差異がある。

すなわち幽玄を第1とした歌舞重視の方向性で、劇的な要素はうすい、詞章も、古典的美しさに徹したものである。幽玄とは、かれの能楽論にしばしば出てくる術語で高雅な優美さをさす。かれの幽玄至上主義は、貴族的な美であって11～12世紀頃の猿楽とは、まったく質を異にする。はじめは庶民芸術として出発した能楽は14世紀の末から15世紀の初めにかけて貴族的に完成されていった。貴族的な伝統美が当時の時代精神をも支配していたことの現れでもある。

世阿弥によって完成された能楽の特質として、徹底した理念的芸術である、つまり現実の世界を舞台の上に持ちこむことは、能楽そのものを破壊する行為にほかならず、それ程までに理念美に徹した表現なのである。

詞章も、現実描写に流れることを避け、それらしい趣を象徴する美しい詩になっている。

そして世阿弥は父観阿弥の教えを踏襲した上で自身の経験をもとに「風姿花伝」を表した。これは能の真髄を解き明かしたもので、世界でも有数の演劇書である。この書の中で世阿弥は〈能〉の生命は花であるとし、花とは何なのかを問うている？花と、おもしろさと、珍しさ、この三つは同じ心であると言っている。演劇の花を世阿弥は「長の美しさ」と表現し、芸の品格のことであると解説している。その最高のものは幽玄であり、これは天性のものであって、これを備えたものがおもしろいものを演ずるとき、華やいだ美をもたらすと言っている。

ではおもしろいものとは？世阿弥は1つは神仏、生霊、死者などが祟る憑き物による物狂い、もう1つは親との別れ、夫に捨てられる、妻に死なれるなどの思いによる物狂いとしている。

更に世阿弥は、神仏、生霊、死者などは、稽古を重ねて憑き物による物狂いの体をマスターすればわかる様になると。演者は神仏や生霊や死者と交わり、それらと現実の世界を橋渡しするものでなければならないと。

また思いによる物狂いは、人間の精神の極みが神の世界に通じるものであることを意味すると。〈能〉ではシテは仮面をつけるが、ワキは能面をつけない、この意味は大変重要で、仮面をつけ、神や死者の世界に交わるシテと同じ空間に現実世界の人間が登場し、演じるとき、能舞台の空間は濃密な幽玄の世界となる。

世阿弥の業績は、質的にも量的にも又独創性においても、だんぜん圧倒的であり、彼に比肩しうる能楽作者は存在しない。間違いなく世阿弥は天才だった。

P.S 次回は世阿弥その2～闇の世界～を掲載します。

カワセミを求めて : 村田 祐一 February 06, 2017 8:35 AM

鳥の写真ーカワセミを求めて :

なかなかカワセミさんには出会えません。

今回はオナガです。

カラス科 全長37センチ 中部以北の本州に分布

カワセミを待っていたら数羽の群れで池のほとりの藪に現れました。



### クラブ例会予定

- 2/2 郭 越氏 加賀白山 RC 米山奨学生
- 2/9 林 恒宏氏 (株)研声舎 代表
- 2/23 小谷内陽平 メイクアウイッシュ北陸支部長
- 3/2 ルドビット・カンタ氏 チェロ演奏
- 3/9 小柳 善裕氏 地区米山委員長
- 3/16 クラブフォーラム 会場未定
- 3/23 中村 哲郎氏 地区 R 財団委員長
- 3/21 IM ホテル日航金沢 13:30**

## 2016～17 役員・理事・委員会

**(役員)** 会長：若狭豊 エレクト：上杉輝子 副会長：藤間勘菊 宮永満祐美 幹事：武藤清秀 副幹事：大路孝之  
 会計：西村邦雄 SAA会場監督：布施美枝子 直前会長：魏賢任

**(理事)** クラブ管理運営委員長 東海林也令子 奉仕プロジェクト委員長 川きみよ  
 会員組織委員長 金沂秀 広報委員長 矢来正和

常任理事：石丸幹夫 吉田昭生 木場紀子

理事会オブザーバー・アドバイザー：パストガバナー 炭谷亮一 地区パスト幹事 岩倉舟伊智

### (委員会)

**クラブ管理運営委員長：東海林也令子** 副：井口千夏

**親睦：**◎井上正雄 大沼俊昭 勝山達郎 北山吉明 相良光貞 竹田敬一郎 道端勝太 村上咏実子 森眞一郎  
 衣川昭浩 山崎正美 浦田哲郎 小浦勇一

**例会：(プログラム/出席)** ◎井口千夏 上田喜之 辰巳クミ 水野陽子

**SAA：**◎布施美枝子 井上正雄 上田喜之

**ニコニコ：**◎表 靖子 井上正雄 矢来正和

**友好・クラブ細則：**細則 CLP 検討 ◎江守 巧 炭谷亮一 後出博敏

富山西 RC との交流 ◎岩倉舟伊智 木場紀子 谷伊津子 野城 勲

金沢北 RC との交流 ◎藤間勘菊 杵屋喜三以満 二木秀樹

その他友好クラブ ◎石丸幹夫 大路孝之 魏 賢任 藤間勘菊 宮永満祐美 村田祐一

**直前委員長：**東海林也令子

**奉仕プロジェクト委員長：川きみよ** 副：大路孝之

**職業：**◎村田祐一 永原源八郎 二木秀樹

**社会 (新世代・青少年を含む)：**◎永原源八郎 辰巳クミ 谷伊津子 野村礼子 水野陽子

### 国際：

世界社会奉仕 (R 財団) ラオス支援 ◎炭谷亮一 岩倉舟伊智 大路孝之 勝山達郎 金 沂秀 西村邦雄

描き損じハガキ ◎江守道子 大沼俊昭 相良光貞 竹田敬一郎 野城勲 後出博敏 山崎正美

米山奨学会 ◎藤間勘菊 上杉輝子 大路孝之 土田初子

**青少年奉仕 国際青少年交換 (日韓など)** ◎大路孝之 上杉輝子 江守 巧 高田重男 宮永満祐美 吉田昭生

**直前委員長：**水野 陽子

**会員組織委員長：金 沂秀** 副：魏 賢任

**会員増強：**◎魏 賢任 井口千夏 北山吉明 高田重男

**修練 (オリエンテーション)** ◎北山吉明 杵屋喜三以満 木場紀子 吉田昭生

**直前委員長** 金沂秀

**広報委員会委員長：矢来正和** 副：表 靖子

**広報：**◎上杉輝子 西村邦雄 矢来正和

**ロータリー情報：**◎表 靖子 土田初子 布施美枝子

**会報・ホームページ：**◎石丸幹夫 上田喜之 江守道子 野村礼子

**直前委員長** 藤間勘菊

**長期姉妹クラブ担当** 韓国南光州：金 石丸 岩倉 江守巧 東京世田谷中央：炭谷 岩倉 石丸 藤間  
 京都北東：炭谷 杵屋 水野 高崎：石丸 村田 金沂秀 藤間 宮永

**(地区委員)** 【会員拡大増強委員会】 委員 魏賢任 【広報委員会】 委員 藤間勘菊 【ロータリー財団委員会】

カウンセラー 炭谷亮一 【ロータリー米山寄付推進担当】 委員 大路孝之 【危機管理委員会】 医師 石丸幹夫

例会会場 ホテル日航金沢 5F 〒 920-0853 金沢市本町 2-15-1 T076-234-11111 例会日時 木曜日 19:00

事務室 ライブ1ビル 2F 〒 920-0852 金沢市此花町 3-2 T076-262-2211 F076-262-2241

E-mail khrc@quartz.ocn.ne.jp ホームページ URL http://100rc.jp/

事務局執務時間 月火水金 9:00～15:00 休憩時間 12:00～13:00 木 15:00～20:00 休日 (土日祝日)

事務局員 西村有里 幹事 武藤清秀